

大山祇神社

大三島は鷲ヶ頭山の麓に大山祇神社が鎮座しています。四国で唯一の神道の大社である大山祇神社はクスノキの木立に囲まれています。木々は境内の大部分を埋め尽くし、静かで落ち着いた雰囲気をもたらしています：なかでも入口近くで柵に囲まれた木は樹齢 2600 年です。

大山祇大社の本殿の竣工は 1427 年にさかのぼります。本殿は 17 世紀竣工の拝殿とともに重要文化財に指定されています。

大山祇大社は海にまつわる神道の神様、また船乗りや兵、戦いの神様として崇敬されています。日本の歴史を通して、大名や侍、武将、大将たちが参拝や戦いの勝利を収めたお礼参りのために訪れています。感謝の念を抱く武将たちが長年にわたり武具を奉納してきたため、大山祇大社は今では日本最大の歴史的武具・武器のコレクションを誇り、国宝 8 点および重要文化財 469 点を擁します。

これらのたくさんの武具は連結した二棟の建物、紫陽殿と国宝館に収蔵されています。両棟とも神社建築に特徴的な幅広の軒と尖った屋根を持ちますが、国宝館が伝統的な白と赤で塗られている一方、紫陽殿はコンクリートと漆喰でより近代的です。

近くにはもう一軒の近代的な建物「海事博物館」が、その急勾配で二つに割れた特徴的な屋根により、木々の中でひととき目立っています。その名にふさわしく、「海事博物館」は海事の博物館であり、海の生物の標本や、中央には昭和天皇が海洋生物の研究に使った「葉山丸」を展示しています。

大山祇大社の鳥居へと延びる道は神社へアプローチする道である参道のよく保存された例です。巡礼者たちは海路で大三島に到着し、港から神社へと参道を歩きました。今日では、大山祇大社を訪れるには異なったルートが使われますが、参道は歩いてみる価値があります。道の途中には人が集まるコミュニティの中心地である「大三島みんなの家」へと変身を遂げた古い家があります。この変身は大三島のような地域コミュニティの再活性化をめざす、建築家伊東豊雄による「これからの建築を考える」Initiative for Tomorrow's Opportunities in Architecture プロジェクトの指揮の下実現したものです。